

AIの資産運用への応用の可能性と限界

—基礎から理解できるAI—

南 正太郎
光 定 洋 介 CMA

目 次

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. はじめに | 3. AIの手法の応用編 |
| 2. AIの手法の基礎編 | 4. 終わりに |

本稿において、AIは機械学習であることを再確認した上で、その基本的な手法であるアソシエーションルール、ニューラルネットワーク、グラフ理論、ディープラーニング等についてAIになじみの薄い人でも理解しやすいように概説する。また、各手法が資産運用にどのように応用できる可能性があるのかについてアイデアや実例の一端を紹介する。更に、AIは機械学習にすぎないことから生じる限界についても論じた上で、今後のアナリストやファンドマネジャーに求められる能力について若干の考察を加える。

1. はじめに

現在、頻繁に登場するAIとは、機械学習のことを指しているケースがほとんどである。コンピューターが学習し、自動的に結論を導き出すさまがあたかも知性をもって考えているようであることからAI（人工知能）と呼ばれるのだろう。し

かしながら、AIが意思をもって、意思決定をするということは現在の技術や技術の発展によってもたらされるものとは程遠いと思われる。なぜならば、現在の機械学習は、統計的手法の応用やデータマイニングと大きく変わらないからである。機械学習とは、ビッグデータと呼ばれる大量のデータを活用し、様々なデータから法則性を導き出



南 正太郎 (みなみ しょうたろう)

あすかアセットマネジメント ファンドマネジャー。和歌山大学経済学部卒、京都大学経営管理大学院 (MBA) 修了、京都大学経済学研究科博士後期課程満期取得退学。日興コーディアル証券 (現SMBC日興証券)、ニッセイ基礎研究所、アーカス・インベストメントを経て2015年8月より現職。主な共著は『「日銀のETF買入が市場を歪めている」は本当か』(月刊資本市場13年7月号)、『総合分析 株式の長期投資』(中央経済社10年3月)



光定 洋介 (みつさだ ようすけ)

あすかコーポレートアドバイザー取締役・ファウンディングパートナー、あすかアセットマネジメントチーフファンドマネジャー。大手銀行、外資系運用会社、バイアウトファンドを経て現職。早稲田大学法学部卒、早稲田大学大学院ファイナンス研究科 (MBA) 首席修了。東京工業大学学術博士Ph.D.、産業能率大学経営学部教授。早稲田大学ファイナンス研究センター招聘研究員。